

千住金属工業株式会社

〒120-8555 東京都足立区千住橋戸町23番地
TEL.03(3888)5151(代) FAX.03(3870)3032

www.senju.com

©2020 Senju Metal Industry Co., Ltd. All rights reserved.

千住金属工業グループのCSR情報
www.senju.com/ja/csr/

メールアドレス
web@senju.com



**NON
VOC**

FSC®が定める責任ある森林管理の原則に基づき認証された森林からの原材料とその他管理された原材料から作られたFSC認証紙を使用しています。またインクは揮発性有機化合物を含まないNon-VOCインキを使用し、アルカリ性現像液やイソプロピルアルコールを含む湿し水が不要な東レ水なし平版®で印刷しています。



千住金属工業グループ
CSR報告書



栃木事業所・松山工場、旧奥州街道松林と鳳翼楼を望む

編集方針

千住金属工業グループの重要課題と社会的要請の高い項目について報告するよう努め、マテリアリティを特定しています。
本報告書は GRI スタンダードの要求項目に沿って制作し、事業を通じて社会問題の解決に取り組んだ結果を事例として報告します。

対象期間	2019 年 4 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日（一部 2020 年 4 月以降の情報も含みます）
対象範囲	グループ会社 27 社（非連結子会社と関連会社を含む。）ただし、社会貢献活動は別途明記
対象変動	連結子会社の増加・減少はなし
加入団体	RBA・日本溶接協会・エレクトロニクス実装学会・JAPIA・東京経営者協会・商工会議所
発行履歴	今回：2020 年 10 月（前回：2019 年 10 月）
次回発行予定	2021 年 10 月
参考ガイドライン	GRI スタンダード・環境報告ガイドライン・ISO26000 * GRI スタンダード対照表は弊社 CSR ウェブサイトに掲載予定です。

免責事項

本報告書には、千住金属工業の将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれていますが、これらの記述は、現時点で把握可能な情報から判断した事項及び所信に基づく見込みです。千住金属工業及びその関連会社は、本報告書に含まれる情報もしくは内容を利用することで、直接・間接的に生じた損失に関し、いかなる責任も負わないことをご了承ください。また、本報告書は、参考のために日本語の原文を英語及び中国語に訳した報告書も用意しております。日本語版と英語版・中国版に相違がある場合は、日本語版を正しいとみなし、翻訳による誤解から生じたいかなる損害についても責任を負わないことをご了承ください。

CONTENTS

編集方針・目次	1
トップメッセージ・経営の理念	3
SMIC グループの目指す姿と CSR	5
私たちの生活を支える SMIC グループの製品	7
TOPICS 1 ゼロエミッション社会の実現に向けて 環境ビジョン 2050 を新たに策定	9
TOPICS 2 スマートシティを支える 低温はんだと高信頼性はんだ	11

TOPICS 3 SMIC が考える新しい時代の働き方	13
環境	15
環境マネジメント	15
環境	16
社会	19
お客様とともに	19
取引先様とともに	20

従業員とともに	21
社会貢献活動	25
マネジメント	29
ガバナンス	29
会社概要・ネットワーク	33

No one will be left behind

誰ひとり取り残さない
社会の実現を目指す

代表取締役社長

鈴木 一

皆が一緒になって乗り越えるための ホールディングス化

千住金属工業グループの2020年度CSRレポートをお届けいたします。

昨年、「千住ホールディングス株式会社」を新設し、再編成された千住金属工業グループがスタートしました。これによりグループ間で資金・人材・開発技術の行き来がしやすい体制となりましたが、ホールディングス化の1番の目的は、創立100周年を目指した体制づくりです。

もともと千住金属工業は、1938年4月、戦前の混乱の中、従業員の生活を守るため、現在の本社の地である東京都足立区千住橋戸町にあった複数の町工場が統合し、千住金属工業の前身である株式会社千住鉛工場を設立したのが始まりです。今回のホールディングス化は、いわば

原点に立ち返り、たとえ様々な困難が立ちはだかるうとも、従業員皆と一緒に成長し、新時代を切り開き進んでいくためと言えます。

持続可能な社会を実現するため SMICグループができること

近年、持続可能な社会を実現するためには、SDGs（持続可能な開発目標）やESG（環境・社会・ガバナンス）の観点での事業活動が重要となっており、ステークホルダーの皆さまからも期待や要望が寄せられています。そこで本年より、CSRレポートの環境・社会・ガバナンスの報告内容を充実化し、「誰ひとり取り残さない」社会の実現を目指した内容としました。

経営の理念

有用な製品を世に供給することで、公器としての使命を果たす。

会社は社員共同の生活の源泉であり、人間完成の道場である。されば先ず第一に会社の発展がそのまま社員の幸福——物心両面の成長に直結することを念願する。他方、会社存立の基盤たる現代社会は、日々不断に会社が優れた有用の製品を世に供給することを期待している。我等は社員と社会のこの二つの立場における要求を調和充足しつつ、その過程を通じて人類の平和と進歩に寄与し、もって公器としての使命を果たすことを経営の理念とする。

然らば、この理念のもとに結集し、会社発展の推進力となり、自己の人生を十二分に開花結実させるための必要にして且つ十分なる条件は何か——いわく実力、いわく誠実、いわく闘魂……まことにこの三ヶ条こそあらゆる生活の場における三種の神器である。

またこの三条の満たされるところ、そこにはおのずから明るい職場、平和な職場、活気溢れる職場が築かれるであろう。この職場を原動力として、日に新たに日に新たに、また日に新たなる開拓者精神を推し進めるならば、あらゆる苦難を乗り越えて会社は成長発展を続けてゆくものと確信する。願わくば我々は共にこの理念を身につけ、活力あらしめ、そして我等が職場に平和と友愛の橋をかけ、明朗にして健康な生活の建設に邁進しようではないか。

昭和35年6月発表

故 佐藤千壽 名誉会長

昭和35年6月～昭和53年6月 社長在任期間

昭和53年7月～平成20年5月 会長在任期間

平成20年6月～平成20年10月 名誉会長在任期間

まず、事業活動を通じてゼロエミッション社会の実現に取り組み、持続可能な社会の構築に貢献するための長期的な環境ビジョンを策定しました。千住金属工業グループは重金属や化学物質を扱う事業が多く、環境に配慮した活動が欠かせません。温室効果ガス削減や製品リサイクル推進、有害性化学物質の使用量削減などの活動に加え、低温はんだに代表される環境配慮型製品の拡充も行っています。

次に、新たな技術社会であるSociety5.0やスマートシティの時代を迎え、千住金属工業グループはこのような新しい社会に貢献するため、信頼性が高く、かつ環境にも優しい製品を創出してまいります。また、IoTやAIなどの技術を生産工場に積極的に取り入れることで、生産現場の声とお客様の声を相互に繋ぎ、よりお客様の要望に沿った製品を提供できる生産体制を築いてまいります。

2020年は年初より、新型コロナウイルス（COVID-19）が世界的に猛威を振っています。千住金属工業グループは半導体材料の製造をはじめとした、社会基盤を支える様々な製品・サービスを担っているため、お客様への供給責任を果たすことを第一とし、COVID-19を含む感染症対策を徹底し事業を継続しています。また、従業員の労働安全や作業負担軽減のための職場環境の改善、テレワークや時差通勤といった柔軟な働き方の推進など、従業員が働きやすい会社づくりに取り組んでおります。

千住金属工業グループは、お客様を始めとしたステークホルダーの皆さまからの声に耳を傾け、信頼関係を築きながら、持続可能な社会を実現するための事業活動に今後も取り組んでまいります。今後とも、一層のご支援とご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

SMICグループの目指す姿とCSR

千住金属工業グループは経営の理念を基に、お客様、従業員、調達先、地域社会、地球環境等のステークホルダーに対し常に誠実な関係を維持し、持続可能な環境・社会・ガバナンスを実現する優良企業を目指したCSR活動・企業活動を展開しています。

会社と従業員の成長
顧客満足とより良い
社会の実現に貢献

ステークホルダーと共に取り組む SMICグループの優先課題

千住金属工業グループでは、RBA (Responsible Business Alliance) の行動規範に規定されている5つの側面と、GRI (Global Reporting Initiative) が推奨する下記の4ステップ・フローに沿って、重要課題を特定し、ステークホルダーと共により良い社会の実現のために優先して取り組むべき事象を整理し、その実現に向けた活動を事業を通じて推進しています。

社会全体の発展

地域社会

- 事業所での事故・災害防止と周辺地域の災害支援
- 地域の文化・慣習の尊重と地域社会への貢献活動

調達先

- 調達取引先の公平な選定と取引
- 企業価値の維持と社会的責任投資への対応

お客様

- 安心・安全・安定した製品・サービスの提供
- 環境配慮型製品・サービスと情報の適切な提供

従業員

- 公正な評価・処遇・人材の育成と活用
- 労働安全衛生と心身の健康への配慮

地球環境

- 地球温暖化の防止と廃棄物発生抑制
- 紛争鉱物不使用と化学物質の排出抑制

ステークホルダーと共に
より良い社会の実現のために
取り組む

経営の理念

step 1 重要な課題・事象の特定

- GRI 項目の側面や重要な RBA 自主監査項目
- 影響を及ぼす範囲の特定

step 2 優先付け

- ステークホルダーと会社にとっての重要性評価
- 月次 CSR 会議での定性的・定量的な評価
- ESG 経営戦略の立案

step 3 確認

- GRI 項目の側面の範囲・影響・期間の評価
- 経営陣による承認と開示

step 4 見直し

- 印刷物等での配布及び開示（日本語版・英語版・中国語版）
- 月次 CSR 会議にて意見を分析・報告し次回に活用

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



事業に係る SDGs 重点項目

千住金属工業グループでは、SDGsの実現に貢献できるよう、社会インフラの基盤となる製品・サービスに金属を提供する企業として、事業活動と特に関わりの深い以下の4つのSDGs目標を重点項目として位置付けています。



私たちの生活を支えるSMICグループの製品

SMICグループの製品は、電子機器・モビリティなどの身近な製品から、風力発電機や基地局・鉄塔などの公共設備、そして人工衛星にいたるまで、あらゆるところで使われ、私たちの暮らしを支えています。これからもSMICグループは、トータルソリューションで接合の未来を切り開き、社会に貢献していきます。

● はんだ付け装置

製造メーカー様の工場ではプリント基板と電子部品のはんだ付け実装工程に、千住金属工業のはんだ付け装置が使われています。



● 材料分析調査

各種材料・製品に含まれる有害物質の分析調査を、産業分析センターが行っています。



● ボールはんだ、ペーストはんだ

スマートフォンやパソコンなどの電子機器や家電製品、太陽光パネルやLEDライト、風力発電機などに、千住金属工業のボールはんだ、ペーストはんだが使われています。



● 棒はんだ

はんだ付け装置での基板実装に、千住金属工業の棒はんだが使われています。



● プリフォームはんだ

自動車の車載装置に、千住金属工業のプリフォームはんだが使われています。



● すべり軸受

自動車などのショックアブソーバーや建設機械の足回りに、千住金属工業のすべり軸受が使われています。



● 特殊合金

水道铸铁管の防腐表面处理に、千住金属工業の「亜鉛-スズ-マグネシウム合金」が使われています。



● スプリンクラー

世界中の住宅・ビル・地下駐車場・公共施設などの消火設備に、千住スプリンクラーの消火用スプリンクラーが使われています。



● 環境分析調査

水・大気・土壌に含まれる汚染物質の分析調査を、産業分析センターが行っています。



ゼロエミッション社会の実現に向けて 環境ビジョン2050を新たに策定

SMIC グループの環境ビジョン 2050

千住金属工業グループは、地球温暖化・酸性雨・土壌汚染や水質汚濁などの地球環境問題に取り組むことが、人類の生存基盤に深くかかわる重要な課題であり、人類共通の使命であることを認識しています。事業活動を通じてゼロエミッション社会の実現に取り組み、持続可能な社会の構築に貢献するため、2050 年に向けた「環境ビジョン 2050」を策定しました。

▶ 実現に向けて

千住金属工業グループは 2010 年に改定した環境方針に則り、CO₂ 排出量削減、リサイクルによる廃棄物削減、環境美化・自然保護活動の推進に取り組んできました。「環境ビジョン 2050」の策定に伴い、これまでの環境活動を「第一次環境プラン」、パリ協定における気候変動問題に取り組むべく、2020 年から 2030 年までの中間目標を「第二次環境プラン」とし、事業活動における環境負荷軽減活動や製品の環境性能向上などにより、ゼロエミッション社会の実現に取り組み、持続可能な社会の構築に貢献していきます。

環境ビジョン2050までのマイルストーン

第一次環境プラン (2010 年度～2019 年度)

- CO₂ 排出量削減
2011 年度比 - 2% の目標値に対して達成
- リサイクルによる廃棄物の削減
廃棄物*におけるリサイクル率 99% を達成
- 環境美化、自然保護活動の推進

※産業廃棄物及び事業系一般廃棄物

第二次環境プラン (2020 年度～2030 年度)

- 温室効果ガス削減
2013 年度の CO₂ 排出量 (17,328 t-CO₂) の 25% 分を 2030 年度までに削減
- 製品リサイクル推進
3R*材料を 100% 使用した製品の開発
- 有害性化学物質の使用量ゼロ
人体と環境に影響を及ぼす化学物質の使用量ゼロ
- 生物多様性の保全
環境保護活動による生物多様性の保全

※3R=Reduce (発生抑制)、Reuse (再利用)、Recycle (再資源化)

環境ビジョン 2050

ゼロエミッション社会の実現に取り組み
持続可能な社会の構築に貢献

3 つの社会の実現を目指して

1 低炭素社会の実現

温室効果ガスゼロ社会への挑戦

- 企業活動における省エネルギー化の推進

2 循環型社会の実現

資源循環による地球資源の保護

- 製品リサイクルの推進による鉱石資源の使用量抑制

3 自然共生社会の実現

- 生物多様性の保全
- 環境リスクのある有害な化学物質使用ゼロ社会への挑戦

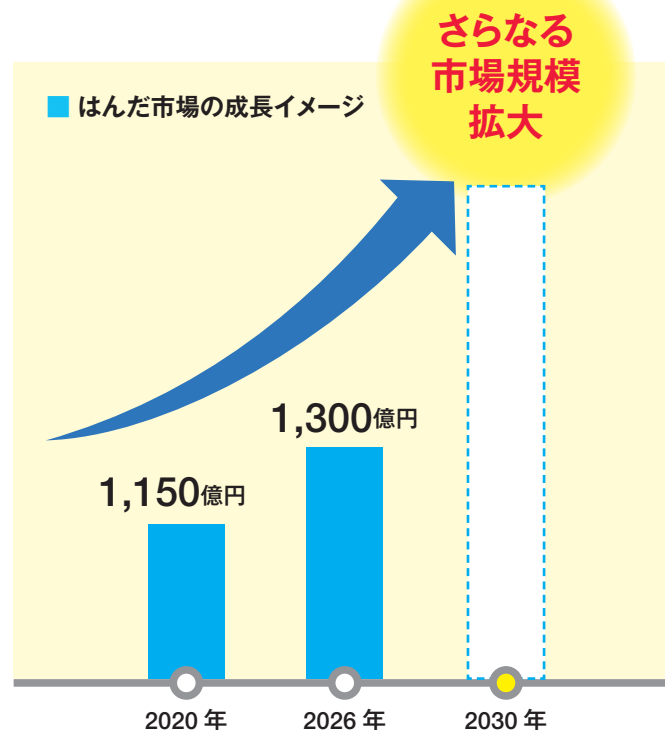
- 環境保護活動による生物多様性の保全
- 土壌・地下水汚染の原因になる有害性化学物質の使用量を削減



スマートシティを支える 低温はんだと高信頼性はんだ



5G や IoT、自動運転など、社会のあらゆるものがオンラインでつながる Society5.0 時代。情報爆発に伴うデータトラフィックの高速化、データ量の増大などにより、半導体デバイスの高密度化が進んでおり、半導体に用いられるはんだの世界需要が高まっています。各種はんだ製品の世界需要は、現在の 1,150 億円が 2026 年には 1,300 億円に到達すると予測されています。特に半導体に用いられるはんだは、2026 年までの年成長率が 6.5% (売上) と予測され、大きな成長が期待できます。そのような中、千住金属工業グループは、より環境に配慮したはんだ、過酷な環境に耐えられるはんだ、CPU・半導体の熱対策に寄与できるはんだの創出で社会に貢献していきます。



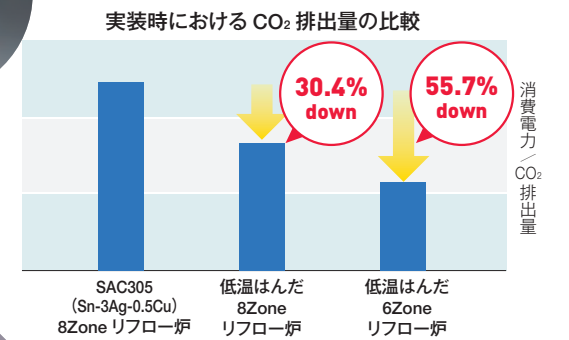
SMIC グループがスマートシティに貢献していく

お客様と SMIC グループのみならず、機器に使われる部品メーカー様とも協力し、Society5.0 や SDGs、持続可能な社会へ貢献できる有用な製品を世界に供給していきます。

スマートシティをサポートする当社の技術

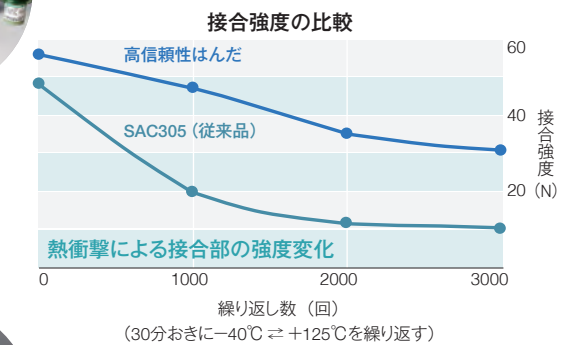
● 低温はんだ

ノート PC やウェアラブル端末の薄型化・軽量化により、耐熱性の低い部品や薄型基板へのはんだ付けに有用な低温はんだが求められています。当社の低温はんだは、一般的な Sn-Ag-Cu 系鉛フリーはんだよりも、約 50℃低い温度ではんだ付けができるため、耐熱性の低い部品や薄型基板の実装を実現しています。また、低融点のため実装機の設定温度を引き下げることができ、電力使用量を約 60%削減できます。



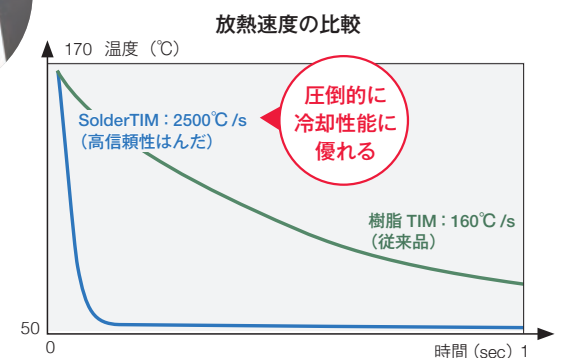
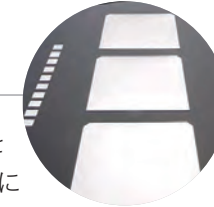
● 過酷な環境に耐える高強度はんだ

モビリティの電子化に伴い、電子部品にはこれまでとは異なる過酷な環境（高温、衝撃、急激な温度変化など）に耐えられる高信頼性はんだ付け材料が求められています。当社の高信頼性はんだは、3つの新しい技術（Sn への固溶による強度改善、Ni 添加による接合界面反応制御、Sn 粒子の粗大化抑制）により、接合強度の向上を実現しています。



● 放熱性を高めるはんだ素材

半導体に電流が流れた際に発生する熱を逃がし温度を一定に保つことは、電子機器やモビリティの動作安定において、大変重要です。半導体の放熱性を高めるため、放熱性の高い銅ボールを核にしたはんだや、熱伝導率の高いはんだを使用した Solder TIM[※]、Ni ボールを均一に配置することにより、半導体接続の姿勢を安定化し、放熱に貢献しています。



スーパーコンピュータ「富岳」に、当社の低温はんだボールが使われています

「富岳」は国立研究開発法人理化学研究所と富士通株式会社が共同開発したスーパーコンピュータです。現代社会が抱えるさまざまな課題と、科学分野における重要な問題の解決に貢献することを目的として「富岳」は開発され、現在 COVID-19 対策のため、治療薬候補探しや飛沫感染予測の研究などで試験利用が始まっています。

当社の低温はんだは品質が安定していて、コストパフォーマンスが良好であることから、今回の「富岳」に採用いただきました。この低温はんだは、高性能 CPU の実装時の加熱に対して耐性が高い特性を生かして、高性能と高信頼性を両立させたスーパーコンピュータの製造に寄与しています。



SMICが考える新しい時代の働き方

千住金属工業グループの製品は、半導体を中心とする、社会基盤を支える様々な製品・サービスに対して重要なそのため、新型コロナウイルスという未曾有の危機においても、国の方針に従い事業を継続することが当社の社

役割を担っています。特に、はんだ製品は半導体材料の一つとして欠かせないものです。社会的責任であると考え、様々な取り組みを実施しました。

新型コロナウイルス感染拡大に関わる社会情勢

2020
1/14
WHO 新型コロナウイルスを確認
2/11
WHO 新型コロナウイルスを「COVID-19」と命名

3/11
WHO「パンデミック」と宣言

4/7
緊急事態宣言発令(4/16 全国に拡大)

5/25
緊急事態宣言解除

～現在
with コロナ時代

～将来
With/After
コロナ時代

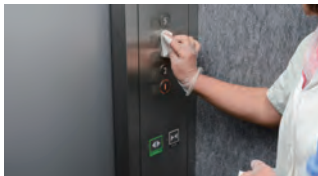
SMIC グループの対応

▶ 緊急事態宣言発令前

従業員の安全と健康を守るため、感染予防とソーシャルディスタンスを確保した環境を整えました。

感染予防の徹底

- 社内共用部の清掃・除菌を毎日行い、清潔な社内環境を維持



- 社内に手指消毒液ボトルを設置



- 各会議室と打ち合わせスペースにアルコール消毒キットを設置



ソーシャルディスタンスの確保

- 社員食堂の昼食時間を分散し、間隔を空けた着席の実施
- 喫煙スペースにおける距離の確保



- 社内受付カウンターにカーテンを設置



- オフィスにデスクウォールを設置



▶ 緊急事態宣言発令後

人同士の接触を減らしながら事業が継続できるよう、「新しい生活様式」に合わせた取り組みを実施しました。

人の移動制限・管理の導入

- TV 会議を活用し、会議室内の人数を制限



- 社屋の棟間通路を封鎖し、建物間の移動を制限



- 作業場入口に入退室記録表を設置



- 来訪者の方へ感染防止対策のお願い



リモートワーク・オフィス分散の実施

- 営業・間接部門を本社、草加事業所、栃木事業所に分散。従業員は自宅から近い事業所に出勤し、通勤における感染リスクの軽減と事業継続を両立



- 営業・開発・間接部門でリモートワークを導入



- 時差通勤と時短勤務を導入し、通勤における感染リスクを軽減

▶ 緊急事態宣言解除後～ with コロナ時代

「グループ応援システム」を導入し、事業を継続できる体制を構築

技能・技術を持った人材がグループ会社間でスムーズに適材適所へ配備できるようにしました。社会ニーズに合わせた技能・技術力の有効活用と従業員の雇用維持を図っています。



▶ With/After コロナ時代

多様性によるサステナビリティ経営の構築

今後は、感染症のみならず、気候変動、自然災害などグローバルな危機に対して、長期的なサステナビリティ（持続可能性）を意識した経営が求められるものと考えられます。

千住金属工業グループは、災害に対するリスクマネジメントの構築と早期復旧体制を整備するとともに、多様性こそがサステナビリティの推進に必要であると考え、ホールディングス化により多様な人材・事業の総合力を高めながら、従業員がそれぞれの持ち味を発揮できる職場環境・制度の構築を進めています。

海外グループ会社の新型コロナウイルス対応

すべてのグループ会社が感染防止対策を実施しながら、操業を続けています。

Senju Comtek Corp.	3月下旬操業再開
Senju Manufacturing Europe s.r.o.	操業止めず継続
北京千住電子材料有限公司	2月上旬操業再開
千住金属（天津）有限公司	2月下旬操業再開
千住金属（上海）有限公司	2月上旬操業再開
千住金属（惠州）有限公司	2月上旬操業再開
千住電子材料（香港）有限公司	操業止めず継続
日商千住金属工業股份有限公司 高雄分公司	操業止めず継続
Senju (Malaysia) Sdn. Bhd.	4月下旬操業再開
Senju (Thailand) Co., Ltd.	操業止めず継続
Senju Solder (Phils.) Inc.	5月上旬操業再開
韓國千住金属株式會社	操業止めず継続



環境マネジメント



環境方針

環境理念

千住金属工業グループは、地球環境保全が人類共通の使命であると認識しています。この使命の基に、持続可能な社会の実現に向け、地球環境と事業活動との調和を図り、豊かな自然と多様な生態系を守ることにより全力を尽くします。

環境管理体制

千住金属工業グループでは、地球環境への負荷を軽減するために必要な措置を講ずる組織として環境委員会を設け、公害防止や環境保全に関する計画の策定、計画実施についての審議などを毎月行っています。また、経営会議で毎年、環境のリスクと機会を特定し、それに基づいた環境活動方針を定めています。

環境マネジメントシステム

千住金属工業グループでは、環境活動の指針となる環境理念と環境方針を定め、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを構築し、PDCA サイクルを回しています。

また、環境に関する重点テーマ 4 項目（温室効果ガス削減、廃棄物削減、有害性化学物質の削減、自然保護活動）について、国内海外の各拠点・各部署が毎年目標と行動計画を定め、環境負荷低減に向けた活動を推進しています。

環境リスク

千住金属工業グループでは、気候変動問題や廃棄物による汚染など様々な環境リスクを把握し、環境事故・汚染事故の未然防止のために厳しい自主管理基準を定め、対策を行い運用しています。また、緊急事態が発生した場合に備え、被害を最小化するため緊急事態対応訓練を年 1 回行っています。

2019 年度の環境事故・汚染事故は発生していません。今後も環境事故防止対策を継続していきます。

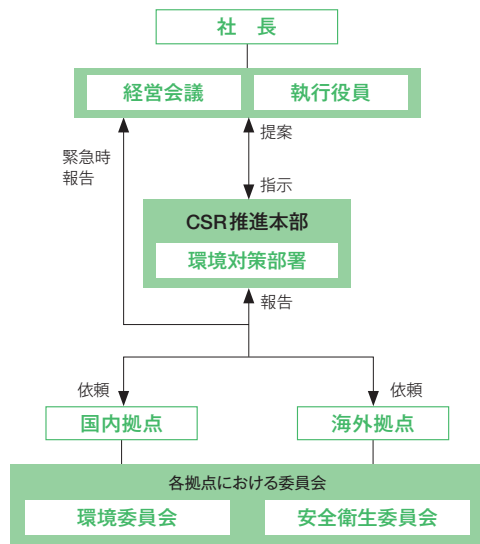
環境教育

従業員の環境への意識向上と環境マネジメントシステムの維持向上のために、環境一般教育（年 1 回）、ISO14001 教育（随時）、廃棄物管理教育（随時）、緊急事態対応教育（緊急事態対応訓練時）など、環境教育を実施しています。

環境監査

順守評価者や関係部署長と環境関係の測定や届出が確実に実施され問題がなかったか、法令で必要な対応が十分とられているかを確認する環境法令遵守評価を年 2 回、ISO14001 の有効性を確認する内部監査を年 1 回実施しています。

■ 環境体制図



環境負荷マテリアルバランス

INPUT		OUTPUT	
原材料	13,942 t	温室効果ガス (国内全拠点)	17,180 t-CO ₂
給水量	460,264 m ³	スコープ 1	3,768 t-CO ₂
エネルギー		スコープ 2	13,412 t-CO ₂
電力量	32,712 MWh	排水量	455,662 m ³
都市ガス	1,467 km ³	BOD	1.35 t
LPG	22 t	COD	2 t
A 重油	22 kl	化学物質 ※ PRTR 届出対象	15 t
灯油	19 kl	最終廃棄物 処分量	0.8 t
ガソリン	112 kl	再資源化量	1,150 t
軽油	25 kl		
化学物質 ※ PRTR 届出対象	921 t		

国内全拠点の大半を占める栃木事業所のインプット・アウトプット

環境



温室効果ガス削減

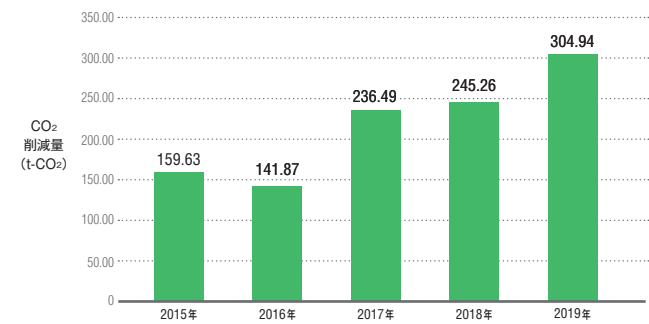
基本的な考え方

千住金属工業グループでは、地球温暖化の防止・緩和のため、事業活動に伴う環境負荷を定量的に監視、計測することとで、エネルギー使用量と温室効果ガス排出量を把握し、省エネルギー化及び CO₂ 排出量削減活動を推進しています。

温室効果ガス排出量の削減（スコープ 1、スコープ 2）

千住金属工業グループでは、製造工場における作業効率の改善や空調機、変圧器などの機器の更新、オフィス・製造工場における照明の LED 化など、省エネルギー化のための活動を推進しており、温室効果ガス排出量の削減に努めています。2019 年度は、304.94 t-CO₂ の温室効果ガスを削減しました。

■ 国内拠点 CO₂ 削減量



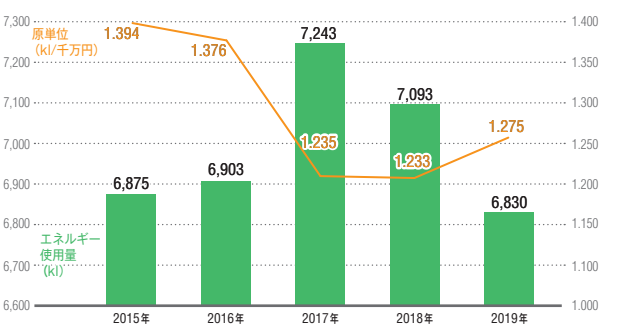
スコープ 3 排出量

千住金属工業グループでは、国内の貨物の年間委託輸送量を製品のカテゴリ別に輸送区間と距離から算出し、CDP（Carbon Disclosure Project）のスコープ 3 で要求されている項目のモニタリングを行い、報告しています。2019 年度の CDP のスコープ 3・カテゴリ 9（下流輸送）の排出量は 1,221.9 t-CO₂ でした。また、従業員の通勤に関する CO₂ 排出量についてもモニタリングを行っています。製品配送に使うトラック便を集約し、輸送における CO₂ 排出量の削減を図っています。

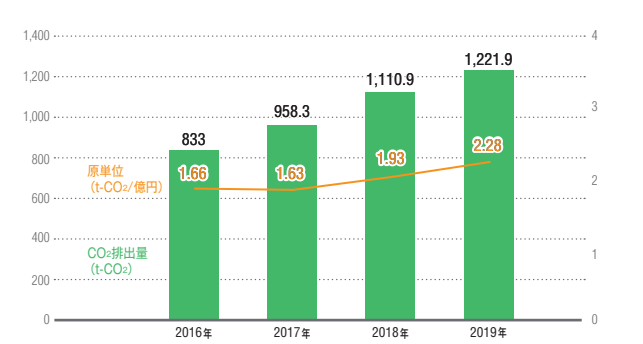
改善内容 (栃木事業所)	年間電力削減予測効果 (kWh/年)
R22 冷媒空調機廃止（代替機に更新）	376,588
水銀灯廃止（LED へ切替え）	10,471
エアーコンプレッサー更新（機器の適正化）	317,700
PCB 含有変圧器廃止（代替機に更新）	36,391
その他改善	15,701

※ 2019 年度数値

■ 国内拠点 エネルギー使用量と売上高原単位



■ 国内拠点 CO₂ 排出量と売上高原単位



環境



廃棄物削減・リサイクル

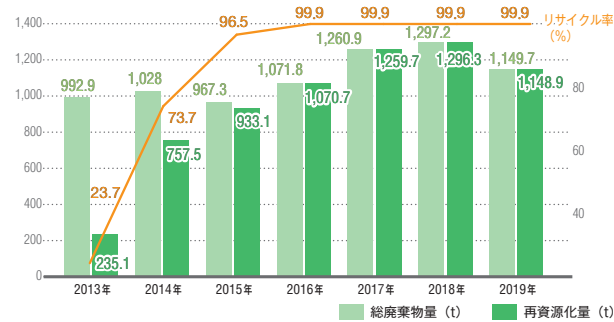
基本的な考え方

千住金属工業グループでは、3R（廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化）の考え方を基本に廃棄物削減・リサイクル活動を推進しています。

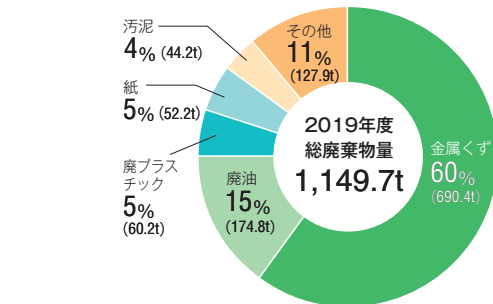
廃棄物排出量削減の取り組み

千住金属工業グループでは、2013 年から廃棄物排出量削減の取り組みとして、はんだリサイクルやプラスチック副資材の回収、軸受製品のスクラップ再生などを実施しています。現在、廃棄物におけるリサイクル率 99% を達成しています。

国内拠点 総廃棄物量とリサイクル率の推移



国内拠点 廃棄物量の内訳



はんだ回収とリサイクルシステム

地球環境保護と資源の有効活用を目的とした「資源循環型社会」の実現に向け、当社は、お客様のゼロエミッションと材料リサイクルの促進、再資源化の要請に応えるべく、関連会社である㈱高橋合金と連携し、1997 年に有害物の発生を極限まで抑制した特殊技術と、独自の精錬方法による高純度のはんだを再生できる、はんだリサイクルシステムを開発しました。お客様から使用済みはんだを回収し、はんだリサイクルシステムにて再資源化することにより、資源の有効活用に努めています。また、製造工程で出た返り材の自社精錬リサイクルも行っています。

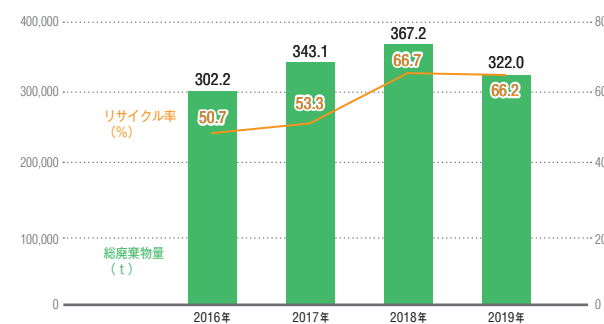
はんだリサイクルシステム



海外拠点データと取り組み

千住金属工業グループの海外拠点においては、国内拠点と同様、環境に関する重点テーマ 4 項目（温室効果ガス削減、廃棄物削減、有害性化学物質の削減、自然保護活動）に基づいた環境活動を推進しており、製品容器や梱包材の回収とリサイクル、製造設備の稼働管理による電力使用量削減などを行っています。各海外拠点と年 1 回ミーティングを行い年度計画及び取り組みを把握し、各地域や状況に応じた環境保全への取り組みを促進しています。

海外拠点 総廃棄物量とリサイクル率



有害性化学物質の削減

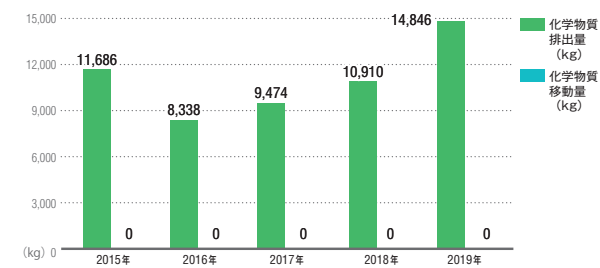
基本的な考え方

人の健康や環境の保護など安心して安全な社会生活を実現していくため、開発・購買・製造・環境部門は環境マネジメントシステムに基づいた化学物質の管理を行っています。特に、環境負荷の大きな化学物質については、使用量削減や使用禁止など、計画に沿って実行しています。また、削減目標を毎年定め、重点的に取り組んでいます。

PRTR 法指定化学物質の排出・移動量

千住金属工業グループでは、PRTR 法に則り、該当物質の取扱量、排出量、移動量の把握に努めています。

PRTR 法指定化学物質の排出・移動量の推移



土壌・地下水の汚染対策

千住金属工業グループでは、土壌・地下水の汚染対策のため、下記の取り組みを行っています。

また、緊急事態対応訓練や汚染水の流出防止のためのリスク教育などを行い、汚染防止に努めています。

土壌	自主的な成分分析（年 1 回実施）
水質・地下水	最終排水口と地下水の点検（残留塩素、pH など、毎日実施） 排水と地下水の成分分析・測定（毎月実施）
雨水	自主的な成分分析（年 2 回実施）

環境配慮型製品

基本的な考え方

2001 年に発売した Sn-Ag-Cu 系鉛フリーはんだが業界標準として採用されてからも、常に経営の理念である「有用な製品を世に供給することで、公器としての使命を果たす」に基づき、環境に配慮した新たな価値を創造する製品を開発し続けています。

省エネルギー

低温短時間実装や熱効率向上などにより、省エネルギーに貢献しています。



環境保護

環境汚染の原因となる材料を使わないことで、環境保護に貢献しています。



お客様とともに



製品の品質・安全確保

基本的な考え方

千住金属工業グループは、「品質・安全性方針」を定め、お客様に安心して製品をお使いいただくために、製品のライフサイクルを通じて品質の向上に取り組んでいます。

《品質・安全性方針》

1. 関連法規制及び顧客要求を遵守し、品質や安全性に配慮した製品・サービスの供給を通して顧客満足の向上を図ります。
2. 定められた品質マニュアルに従って、品質マネジメントシステムを構築し、実施し、維持するとともに、その有効性を継続的に改善します。
3. 品質方針・品質目標を定めて活動するとともに、定期的にまた必要に応じてレビューし、マネジメントシステムの改善の機会（間隔、頻度、場面）についての評価も行います。
4. 品質マネジメントシステムの変更の必要性も評価し、変更が必要な場合は、経営の理念に照らして適切性を維持するためにレビューします。

品質マネジメントシステム認証取得

千住金属工業グループ（国内・海外）の製造拠点において、国際規格であるISO9001を21拠点で取得しています。また、自動車産業の品質マネジメントシステムであるIATF16949認証では、国内海外の計16拠点で取得しています。

品質向上への取り組み

千住金属工業グループでは、納入・工程における不具合をなくすために、年間の品質活動計画を策定し、各部門が目標を立て不具合の削減に取り組んでいます。不具合が発生した場合は再発防止対策をまとめ、分析結果を次年度の改善計画に落とし込み、継続的にPDCAサイクルを回すことで品質改善を行っています。グループ全体の品質レベル向上を目的に、優れた成果をあげた海外工場へ品質優秀表彰を行っています。

CS向上への取り組み

千住金属工業グループでは、CS（顧客満足度）向上に努めています。お客様への提案や共同開発、技術セミナーや技術交流会、展示会への出展などを通じて、営業活動や技術革新の向上に励んでいます。

それらを評価いただき、2019年度は右記の賞をいただきました。

製品含有化学物質管理

人の健康や環境の保護などを目的とした欧州の化学品規制法であるRoHS指令とREACH規則に対応するため、環境マネジメントシステムに基づいた化学物質の管理を行っています。専属者によるチーム体制を敷き、当社製品に関する化学物質調査の対応をしています。

品質監査

千住金属工業グループでは、グループ会社を含む国内製造拠点と営業拠点において、IATF16949認証のための内部品質監査を、はんだ部門と軸受部門で毎年2回行っています。また、国内と海外の全ての製造拠点を対象に、定期品質監査を年1回行っています。

品質不正の防止

千住金属工業グループでは品質不正防止のため、1972年に関連会社である産業分析センターを設立し、一般的に内部で行われている検査・分析工程を第三者機関である産業分析センターが行っています。その分析結果をもとに合否判定することにより、検査工程における不正や偽装を防いでいます。



Intel Supplier Continuous Quality Improvement Award



ASE Group Sustainability Partnership Award



日産自動車 サプライヤー スコアカード優良品質感謝状

REACH規則においては、取り扱う化学物質の本登録を完了しており、調達先からのSDSを入手し、31条及び32条に基づきお客様へ情報を伝達しています。また、GHS「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」に適合した、SDS・GHSラベルをお客様に提供しています。

取引先様とともに



調達活動

基本的な考え方

千住金属工業グループは、調達に関する法令と経済産業省の自動車産業適正取引ガイドラインを遵守し、購買方針としての基本姿勢（取引先様に対して礼儀を重んじ、公平かつ誠実な調達を行う）と、取引先様との調達におけるCSR調達方針を定めています。

また、調達取引先に求める基本姿勢として、ISO9001・ISO14001要求事項とRBAが規定するサプライチェーン・アセスメントのガイドラインを参考に14項目をお願いしています。

調達を通じた社会への貢献と、取引先様との良い関係を築くため、今後も調達コンプライアンスを遵守し、安心で安全なサプライチェーンの確立に取り組んでいきます。

CSR調達方針

1	千住金属工業株式会社「品質・安全性方針」
2	千住金属工業株式会社「環境方針」
3	千住金属工業株式会社「購買方針」
4	千住金属工業株式会社「調達取引先に求める基本姿勢」
5	納入品に対して配慮いただきたいIATF16949の要求事項
6	納入品に対して配慮いただきたい環境管理上の要望事項

調達取引先に求める基本姿勢

1	法令・社会規範の遵守
2	健全な事業経営の推進
3	品質・納期・安定供給の重視
4	事業継続計画（BCP）の重視
5	環境への配慮
6	社会的紛争がある地域からの調達の禁止
7	VE（Value Engineering）活動の重視
8	情報提供の重視
9	資材調達期間短縮取組の重視
10	機密の厳守
11	IT活用推進の重視
12	情報セキュリティ
13	反社会的勢力の排除
14	社会貢献

CSR調達への取り組み

千住金属工業グループでは、調達部門及び関連のある開発・製造部門が、年間計画に従い国内外の取引先様への監査を実施しています。2019年度も、国内外の取引先様にサプライチェーン・アセスメントのご協力をいただき、問題のないことを確認しています。

また、取引先様と双方向での訪問と説明会を行い、コミュニケーションに努めています。



責任ある鉱物調達への取り組み

2011年1月にRBA（Responsible Business Alliance）に加盟し、電子業界のお客様と密接な関係を構築してまいりました。2014年からはRMI（Responsible Minerals Initiative）会員として、製錬所に対しRMAP（Responsible Minerals Assurance Process）の受審と第三者認証取得を積極的に働きかけ、2015年2月に調達先の製錬所が全てRMAP認定されています。

今後はこれまでの紛争鉱物からより広範囲なリスクに対応した「責任ある鉱物調達」のため、引き続き全ての調達先製錬所にRMAP認定の更新を呼びかけ、千住金属工業の製品の安心で安全なサプライチェーンの持続を目指していきます。



従業員とともに



人材に対する考え方

基本的な考え方

千住金属工業グループでは、従業員は重要な財産であると考え、従業員一人ひとりの人権と個性を尊重するとともに、多様な人材が成長し活躍できる職場環境の整備に努めています。

人権の尊重

■ 人権・労働に関する基本方針

千住金属工業グループでは、CSR 基本方針及び CSR 実践目標において、人権と労働に関する方針と目標を定め、経営の理念にある「実力・誠実・闘魂」を抱き、生き生きと働ける環境づくりに取り組んでおります。

また、ハラスメントは絶対にあってはならないという考えのもと、「ハラスメント防止教育」を行い、従業員に啓蒙しています。

人材育成

千住金属工業グループでは、全従業員が絶えず新しい知識の修得に努め、広い視野を持って合理的な判断ができる人を養成することを目指しています。教育実施規定に基づき効果的なやり方を検討し、階層に応じた教育を実施しています。

また、2020 年度よりはんだ付けの品質・技能向上を目的とした「はんだ付け技能検定」を実施しました。社内はもとより将来的にはお客様向けにはんだ付けスクールを開催するなど発展を目指し、千住金属工業グループの新しい文化として根付くよう今後も取り組んでいきます。

■ 公正な評価と自己申告制度

千住金属工業では、能力開発のための適切な指導と人材育成への活用のため、人事考課を年2回行い、社員の勤務成績および能力を平等に評価し、昇格・昇給・賞与に反映しています。また、職場環境の改善を目的とした自己申告制度を設け、社員一人ひとりに仕事や職場環境について、どう考えどのよう望んでいるのか年1回アンケートを行い、社員がより一層活躍できるよう改善に取り組んでいます。

■ 教育支援制度

千住金属工業では、社員が大学や大学院に進学し、より高度かつ先端の知識や技術の習得を目的とする、奨学金支給制度を設けています。また、社員が自発的に自己研鑽に励み、より高度な技能や知識の習得を支援するため、「特殊技能取得に関する助成」を行っています。

	階層別研修		職能別教育訓練	テーマ別・自己啓発	実地研修
	集合研修	通信教育			
上級管理者	マネージャー研修（上級編） マネージャー研修（初級編）	考課者訓練（新任）	実力管理者基礎コース（新任）	営業マン研修 上級編	はんだ付け 技能検定
中級管理者					
初級管理者	中堅社員研修		実力管理者基礎コース（新任）	営業マン研修 初級編	営業技術職 研修
中堅社員			中堅社員上級編 中堅社員初級編		
新入社員	新入社員フォローアップ研修 新入社員研修	新入社員向け 通信教育			

労働安全衛生

基本的な考え方

千住金属工業グループは、安全衛生活動の充実を図り、労働災害を未然に防止するために必要な基本的事項を明確にし、従業員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進することを目的とする安全衛生管理規定と安全衛生方針を定めています。

《安全衛生方針》

- 我々は労働基準法、労働安全衛生法に基づき安全衛生活動の充実を図り、快適な職場環境の形成を促進します。
- 会社は安全衛生管理体制を確立し、労働災害を未然に防止するために、必要な措置を組織・職制を通じて積極的に推進します。
- 社員は法令及び会社が定める規則を遵守し、労働災害防止と健康保持増進に努めます。

■ 労働安全衛生マネジメント

法令に基づき、各拠点で規模に応じた安全衛生管理体制を敷き、年間活動計画書を作成し活動目標と重点活動項目を定め、計画書に従い安全衛生活動を行っています。

■ 重大労働災害発生状況

当社の労働災害発生率（災害度数率）は、全国の製造業や業界平均を下回る水準を維持しています。

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
災害度数率	0	0	0.47	0.49	0

※労働災害度数率：（休業災害件数＋不仕業災害件数）／総労働時間×1,000,000

健康維持

千住金属工業では、法令に基づく健康診断及び相談窓口設置等のほか、社員の私傷病の治療に関する負担を軽減するため、会社負担によるがん保険への加入や一か月に医療機関で発生した医療費の一部を会社が負担する制度を設け、社員の自己負担を軽減しています。

各種制度		頻度・期間	内容
健康管理	一般健康診断	1 回 / 年	従業員に対し一般健康診断または生活習慣病健診を実施
	生活習慣病健診	2 回 / 年	
	特殊健康診断	2 回 / 年	人体に害のある業務に従事する従業員に対し、特別の項目について健康診断を実施
	ストレスチェック	1 回 / 年	アンケートに回答し、個々にメンタルヘルスクエアへの気づきや生活習慣改善を促すアドバイスを提供
福利厚生	がん保険制度	25 歳以上	がん保険に社員を加入させ保険料を会社が負担することで、社員の不慮のがん罹病による負担を軽減
	医療費会社負担制度	都度	社員の私傷病の治療に要する医療費の一部を会社が負担
その他	相談室設置	随時	産業カウンセラーによる職場や仕事に関する悩み相談の実施



従業員とともに



働きやすい職場づくり

基本的な考え方

千住金属工業グループは、仕事と生活の両立のための支援や従業員相互の親睦及び福祉の向上のための活動組織の運営など、従業員が活き活きと活躍できる職場環境づくりに取り組んでいます。

また、勤怠管理システムによる労働時間と在社時間の把握による長時間労働の抑制・指導など、従業員が安心して働けるための様々な対策・改善を行っています。

仕事と家庭の両立支援

千住金属工業グループでは、従業員が仕事と家庭を両立し、安心して仕事ができるよう、育児・介護休業法に基づいた育児休暇制度と介護休暇制度を設けています。

また、当社は従業員の申し出による所定労働時間短縮の措置を講じています。実際に小学生の子を持つ従業員の多くが利用し、子育てとキャリアを両立しています。

従業員相互の親睦及び福祉の向上

従業員相互の親睦を図ることを目的とした「千友会」による班活動・レクリエーションを主催しています。また、従業員を代表して職場環境改善や就業上の安全確保等を目的とする「労務委員会」を設け、働きやすい安全な職場の実現と会社の発展に寄与すべく活動しています。



ダイバーシティ

基本的な考え方

千住金属工業グループでは、人種、性別、経歴、年齢、価値観、家族構成、生き方など様々な「違い」を尊重し、積極的に活かすことで、変化し続けるビジネス環境や多様化する顧客ニーズに効果的に対応し、従業員一人ひとりの可能性を信じ、能力が発揮できるよう、「幸せを感じ、より長く、安心して、働きがいのある職場を実現する」ことを目的に、ダイバーシティに取り組んでいます。

女性の活躍推進

千住金属工業では、女性活躍推進法に基づき一般事業主行動計画を策定し、女性の活躍推進に取り組んでいます。

研修・セミナーの実施

ニーズや状況等に応じた研修やセミナーを随時実施し、従業員の意欲向上を図っています。2019年度は主に事務系の女性社員を対象にキャリア形成の支援を目的とした、キャリアデザインセミナーを実施しました。

障がい者の雇用

千住金属工業グループでは、従来より障がい者雇用に取り組んでおり、障がいのある方が安心して活き活きと働けるよう職場環境を整備しています。

「ダイバーシティ勉強会」の実施

ダイバーシティ勉強会では、毎回「従業員同士の違い」に焦点を当てたテーマを定め参加者自らの経験や状況を話し、参加者同士で自分の考えやアドバイス、工夫を述べたりしながら「気づき」を得ています。また、従業員同士、従業員と会社の相互間の理解を深め、より働きやすい環境を整える機会の場としています。

2019年度は、6回行われ計48名が参加しました。また、勉強会を始めて初となる外部講師の方を招いての講演会『セルフマネジメントの仕方ー精神面での土台作りー』を開催し、若手社員を始めとする多くの従業員が聴講しました。



従業員データ

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
従業員数					
国内	1,645人	1,584人	1,694人	1,731人	1,747人
海外	632人	601人	643人	627人	631人
計 ※()内は女性比率	2,277人(35.8%)	2,185人(37.3%)	2,337人(35.0%)	2,358人(36.0%)	2,378人(36.8%)
正社員					
男性	—	—	—	1,233人	1,242人
女性	—	—	—	569人	533人
契約社員					
国内	—	—	—	518人	488人
海外	—	—	—	38人	115人
計 ※()内は女性比率	—	—	—	556人(50.2%)	603人(56.6%)
管理職(国内)					
男性	97人	104人	100人	105人	116人
女性	4人	5人	5人	6人	7人
女性管理職者比率	3.96%	4.59%	4.76%	5.41%	5.69%
管理職(海外)					
男性	—	—	—	—	74人
女性	—	—	—	—	42人
女性管理職者比率	—	—	—	—	36.21%
採用関連					
男性	24人	34人	44人	79人	47人
女性	8人	14人	16人	23人	18人
計	32人	48人	60人	102人	65人
離職率(入社3年後)	3.1%	20.8%	10.0%	15.6%	16.9%
各種休暇制度					
平均有給休暇取得日数/年(日)	9.13日	8.65日	7.4日	9.8日	8.5日
有給休暇取得率	57.74%	57.50%	59.41%	62.63%	62.49%
育児休暇取得者数	12人	11人	8人	12人	10人
育児休暇復帰率	100%	100%	100%	91.70%	100%
介護休暇取得者数	1人	0人	3人	1人	0人
介護休暇復帰率	100%	100%	33%	100%	100%
労働関連					
平均所定外労働時間/月(h)	9.96時間	14.2時間	13.7時間	15.6時間	14.4時間
障がい者雇用					
障がい者雇用人数	20人	21人	18人	17人	16人
障がい者雇用率 ※()内は法定雇用率	2.7%(2.0%)	2.6%(2.0%)	2.2%(2.0%)	2.2%(2.2%)	2.1%(2.2%)

社会貢献活動



自然環境保全

もおか環境パートナーシップ会議

栃木事業所 | 4回/年間



里山保全ボランティア

関西事業所 | 2019.5.19、11.10



Khlong Khon マングローブ植林

Senju (Thailand) Co., Ltd. | 2019.8.17



クリーンリバー活動 (inside PEZA Zone)

Senju Solder (Phils.) Inc. | 2019.11



森は海の恋人植樹祭

千住スプリングラー (岩手) | 2019.6.2



砂鉄川一斉清掃

千住電子工業 | 2019.4.20



北京公清森林農場での植林活動

北京千住電子材料有限公司 | 2019.3.27



旗津島ビーチクリーン

台湾千住電子股份有限公司 | 2020.2.15



呉羽丘陵竹林整備ボランティア

千住システムテクノロジー | 2019.4.20



石崎浜ビーチクリーン

千住技研 | 2019.8.3



森林保護区クリーンボランティア

Senju Comtek Corp. (シカゴ) | 2019.9.7



周辺地域の清掃

Senju Manufacturing Europe s.r.o. (チェコ) | 2020.5.26



社会貢献活動



文化・教育・地域交流

ものづくり教室（小学校へ出前授業）

本社 | 2019.7.22



中学校技術授業へのはんだ材料提供

本社 | 2019



西脇多可新人高校駅伝競走大会への支援

関西事業所 | 2020.2.16



みんなのメダルプロジェクトへの協力

千住電子工業 | 2019



児童養護施設への訪問

Senju (Malaysia) Sdn. Bhd. | 2019.11.16



フードパントリーへの寄付

Senju Comtek Corp. (シカゴ) | 2019.11.26



貧困家庭への衣類、図書の寄贈

千住金属（上海）有限公司 | 2019.12



消防技能競技への参加

千住金属（惠州）有限公司 | 2019.11.9



石洞美術館

千住金属工業本社ビル内にある石洞美術館は、美術工芸を通しての国際間の文化交流、相互理解の促進、我が国の文化の向上を図るため、2006年4月に公益財団法人美術工芸振興佐藤基金によって設立されました。所蔵品は、故佐藤千壽名誉会長の収集したコレクションを核としており、美術館の名称は佐藤の雅号「石洞」から採っています。

石洞美術館では、地域の皆様に美術を楽しんでいただく活動として、所蔵品を中心とした企画展や「コンサート in ミュージアム」などのイベントを開催しています。



コンサート in ミュージアム

喫茶「妙好」

石洞美術館に隣接する喫茶「妙好」は、足立区の障がい者団体「友愛会」が、障がい者の方々の自立訓練および社会参加の場として運営する喫茶店です。知的障がいの方が働いている支援事業所「綾瀬ひまわり園」で作られたパンを販売しているほか、知的障がいを持つ方が毎日元気に働いています。

千住金属工業は友愛会の活動を支援するために、喫茶スペースを無償で提供している他、諸々の援助を行っています。



ガバナンス

コーポレートガバナンス

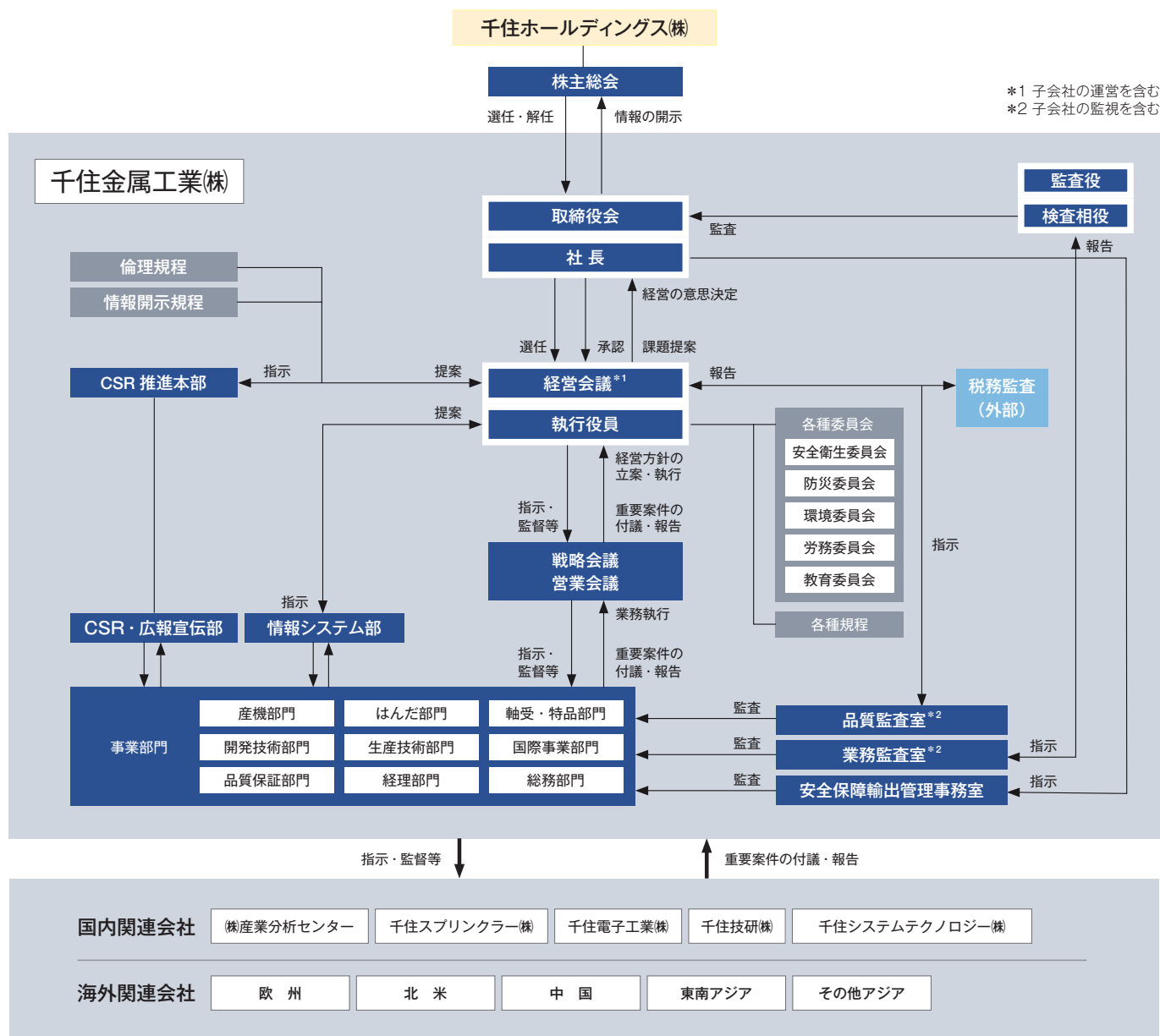
基本方針

千住金属工業グループは、健全かつ公正で透明性の高い経営を維持し、時代の変化に合わせてながら経営体制を整備・運用し、企業統治体制を構築していきます。

また、全てのステークホルダーに対して公平性をもって情報を開示することにより説明責任を果たすことを基本方針としています。

コーポレートガバナンス体制

法令に基づく株主総会・取締役会に加え、監査役・検査相役や税務監査の配置と CSR 推進本部・経営会議・戦略会議の整備などにより、ガバナンスの強化に努めています。



取締役会と業務執行体制

■ 取締役会

取締役 5 名と監査役 1 名、検査相役 1 名で構成され、関係法令及び定款の定めるところに従い、千住金属工業経営管理の最高最終の意思決定機関として、執行役員の任免と経営会議からの上程の決議を行います。取締役会の審議・決定の指標として、別途定めた倫理規程、情報開示規程を設けています。

■ 経営会議

取締役、執行役員等により構成され、法定事項を審議するとともに、会社業務執行上の重要な事項を決定もしくは承認します。また、取締役会が審議決定すべき業務執行に関する事項については取締役会に上程します。経営会議の審議・決定の指標として、別途定めた各種規程、BCP 管理規程、危機管理規程、情報セキュリティ規程を設けています。

■ 執行役員制

執行役員制を導入しており、取締役会により選任された執行役員部門長が、所轄する部の分掌を統轄し管理を行っています。会社の事業計画に基づき所轄する部の事業計画を立案し、実行しています。担当役員として所轄する部の指導に当たり、重要事項を直接指揮しています。

監査監督体制

■ 監査役・検査相役

監査役 1 名と検査相役 1 名を選任しています。取締役の職務の執行を含む日常の経営活動の監査を行っています。監査役と検査相役は、取締役会に出席し、違法または著しく不当な決議がなされることを防止する責務を果たすとともに法令に準拠した活動を行っています。

取締役・監査役・執行役員の紹介

	氏 名	執行役員	取締役会	経営会議
代表取締役社長	鈴木 良一		○	○
代表取締役常務	長谷川 友秀	○	○	○
常務取締役	川又 勇司	○	○	○
取締役	佐藤 有香	○	○	○
取締役	奥野 哲也	○	○	○
監査役（社外）	佐藤 昭壽		○	
検査相役	坂口 和年		○	○
理事	大竹 基之	○		○
理事	石井 泰博	○		○
理事	田中 節夫	○		○
副理事	角屋敷 敏丸	○		○

コンプライアンス

基本的な考え方

千住金属工業グループでは、経営の理念をコンプライアンスの要と考え、CSR 基本方針に基づいたコンプライアンス基本方針と実践目標を定めています。また、従業員就業規則にてコンプライアンスの重要性を明文化し、従業員はこれらの方針・目標・規則を誠実に守り、会社の秩序保持に努めています。

また、千住金属工業グループの CSR 基本方針及び CSR 実践目標において、公正取引・倫理事項を遵守し、運用しています。

コンプライアンス活動の状況

千住金属工業グループでは、事業活動にかかわる各種法令を遵守するため、各種教育（CSR 教育、環境教育、取引先様への調達方針教育、安全保障輸出管理教育）と内部監査、取引先様への監査を実施しています。

内部監査においては、業務監査部門による健全な企業コンプライアンス維持を目的とした、外為法に基づく「安全保障輸出監査」、RBA 行動規範に基づく「CSR 監査」、社内外の機密情報の取り扱いに関する「情報セキュリティ監査」を国内海外の全拠点に対して実施しています。各監査での是正事項は各部署にて速やかに対策を講じ、継続的なマネジメントシステムの改善へとつなげています。

■ 2019年度監査実績 (単位: 監査件数)

監査対象	業務監査	安全保障輸出	特定荷主
千住金属工業	61	30	18
グループ会社（国内）	30	5	4
グループ会社（海外）	4	0	0
委員会、その他	14	0	0
合 計	109	35	22

■ 社内通報窓口制度（スマイルメール）の設置

従業員の人権に関する問題（ハラスメント等）やコンプライアンスに関する問題（法令や社内規程違反、企業倫理や社会的規範等の問題）に対して匿名で相談・通報できる専用の内部通報窓口（スマイルメール）を設置し、不正行為等の早期発見と是正を図っています。

ガバナンス



リスクマネジメント

考え方、リスクマネジメント活動

千住金属工業グループは、サプライチェーンの上流に位置する企業の責任として、地震や台風などの自然災害、新型コロナウイルスなどの感染症、情報漏洩や不正アクセスなどの情報セキュリティ、安全保障に関する輸出管理、知的財産などのあらゆるリスクを想定し、各リスクに対処するための専門部署・委員会を設置し、リスクに対する未然防止および損失を最小限に抑える対策を実施しています。

事業継続への取り組み

各種リスクの評価・分析・対策を行い、被害を最小限にとどめ事業の継続能力を高めるためのリスクマネジメントの構築と、重要業務の早期復旧を図るための推進体制、「設備等災害復旧実施計画書」などの行動計画を定めています。

また、災害などの緊急事態により生産困難な拠点があった場合、国内海外の他拠点と連携して生産が継続できるようバックアップ体制の強化を行っています。

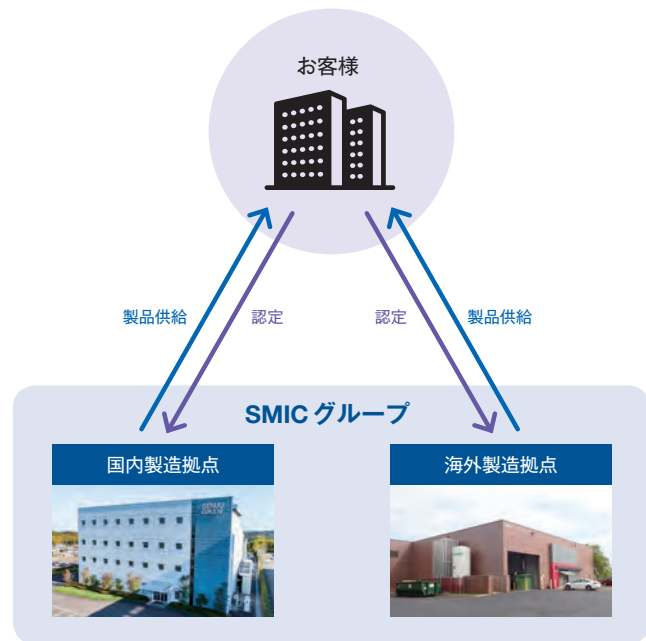
防災訓練の定期実施

千住金属工業グループでは、地震や火災などの災害から従業員の生命を守るため、消防署や警備会社の指導のもと、避難訓練・消火訓練・救命講習（AED講習）を毎年実施しています。

また、管轄消防署が実施している総合防災訓練にも参加し、地域社会との連携強化に努めています。



安定供給のための生産バックアップ体制



情報セキュリティ

近年発生しているサイバー攻撃による被害に鑑み、情報セキュリティの管理運用を一層強化しています。情報システム部門は基本的な行動計画を策定し、被害が発生した際の封じ込めや、迅速な復旧ができるように、脅威を検知する能力を向上させ、確実なバックアップの取得を行っています。サイバー攻撃の手法は日々変化していきますが、従業員にルールや脅威に対する教育を定期的に行い、情報セキュリティの重要性を啓蒙していきます。

安全保障輸出管理

千住金属工業グループは、大量破壊兵器などの不拡散、通常兵器の過度の蓄積防止、各国間の貿易摩擦などの問題に対し、輸出に関して制限をかけることで緊張状態の秩序を保ち、国際平和と安全の維持のための法律、外国為替及び外国貿易法などの法令を遵守しています。適切な輸出管理

を実施するために、安全保障輸出管理の最高責任者に代表取締役社長をおき、その直下に安全保障輸出管理事務室を設置し、輸出管理体制の整備と充実を図っています。将来的には業務の人為的ミスを回避するために、システムによる自動化を検討しています。

該非判定

開発部門が外為法関連法規で規制されている貨物のリスト（輸出規制リスト）と照合して判定

取引審査

営業部門がその輸出貨物について、用途と需要者（エンドユーザー）を確認

出荷管理

物流から出荷する際に、該非判定と取引審査が完了していることを確認し、ドキュメントに記録

規程類や教育実施に關しての届出や、内部監査を年1回実施することで、規程遵守を維持しており、経済産業省より安全保障貿易管理に係る自主管理体制を整備している企業として認知されています。

※経産省による「輸出管理内部規程を作成し実施している企業名の公表」より
https://www.meti.go.jp/policy/anpo/compliance_programs_pdf/kigyokouhouyou.pdf

安全保障輸出管理教育

当社では毎年、該非判定や取引審査、出荷管理の担当者向けに、安全保障輸出管理の教育を行っています。（2019年度：部署・担当者別に計57回実施）

また、外部講師による経営陣を対象とした教育や、関連法令をわかりやすく説明した教育資料を作成し、各部署への教育も行っています。

知的財産

千住金属工業グループは、研究開発の成果や製造現場での改善活動等から生まれた技術、知見、ノウハウなどの価値ある情報を保護するため、知的財産部門による情報の権利化（特許化、商標登録）や秘匿化（ノウハウの秘密管理）をするための管理を行っています。

自社製品の保護及び第三者の権利を侵害しない取り組みを推進し、知的財産制度を有効に活用することで、会社の持続的成長に向けた事業活動の一助となり、さらには社会に役立つ価値の創出にも貢献していきたいと考えています。



特許保有状況

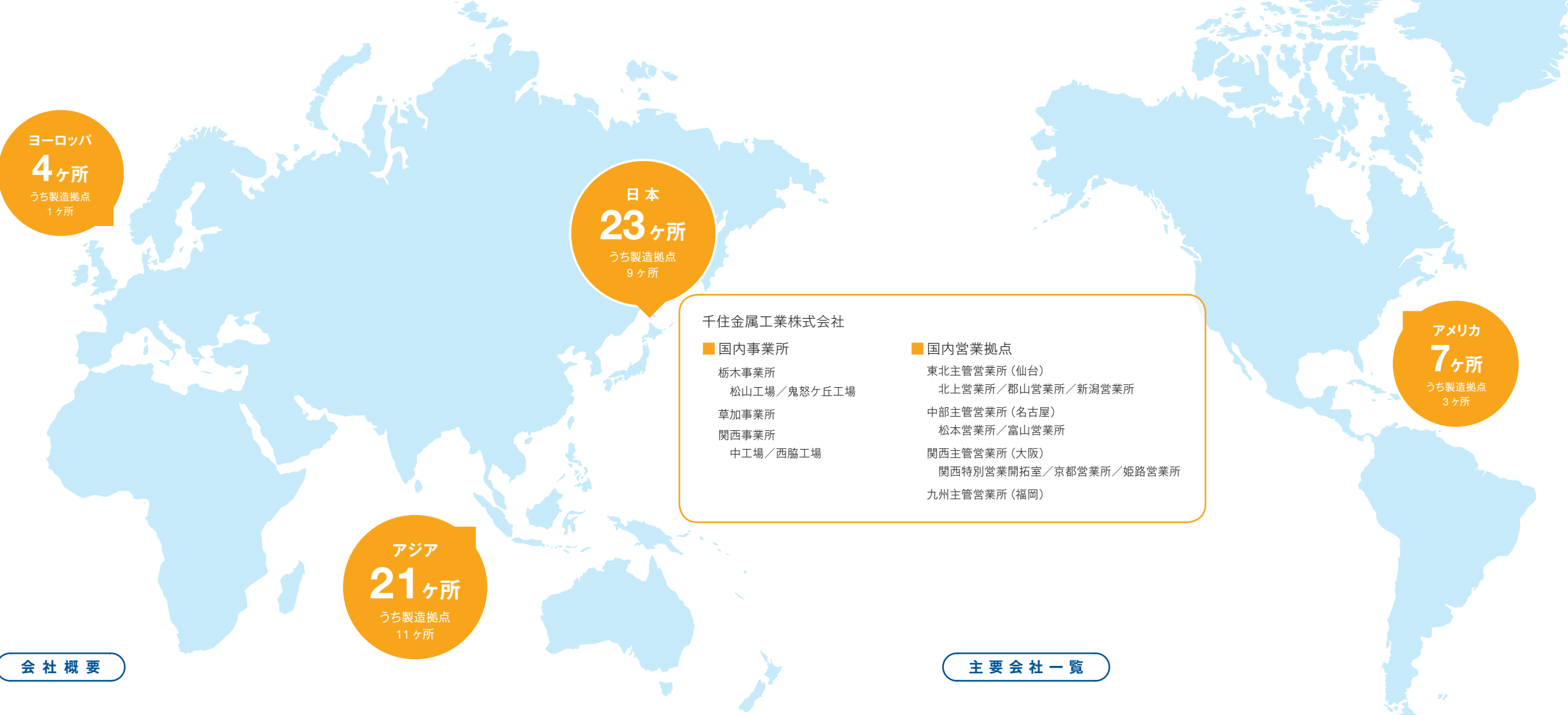
自社製品とSMICブランドの保護を目的として、特許・商標・意匠を取得しています。

（2020年6月現在）

特許		商標		意匠	
国内	外国	国内	外国	国内	外国
484件	1,435件	102件	370件	14件	7件

知的財産教育

当社では、開発技術部門を対象に、定期的に勉強会を開催し、特許制度、ノウハウ管理、特許検索などを中心とした実践的な取り組みを行い、製品開発・製造リスクに対する管理向上に努めています。



会社概要

千住金属工業株式会社／千住金属工業グループ
SENJU METAL INDUSTRY CO., LTD.

DUNS# 690663091

設 立	1938 年 4 月 15 日
本社所在地	〒120-8555 東京都足立区千住橋戸町 23 番地
代表取締役社長	鈴木 良一

事業規模

売 上 高（連結）	73,152 百万円 (2019年4月1日～ 2020 年 3 月 31 日)
資 本 金（単体）	400 百万円
従業員数（連結）	2,378 人 (2020 年 3 月 31 日時点)

事業内容

- 金属の溶解、合金、鋳造、展伸、加工品の製造・販売
- 金属の粉末及び軸受の製造・販売
- はんだ付け用溶剤並びに接着剤の製造・販売
- はんだ付け装置の製造・販売
- 消火装置部品の製造・販売（関連会社事業）
- 前記に関連する機械設備の製造・販売
- 社内派遣業

主要会社一覧

日本

株式会社産業分析センター
千住スプリンクラー株式会社
千住システムテクノロジー株式会社
千住電子工業株式会社
千住技研株式会社

アメリカ

Senju America Inc.
Senju Comtek Corp.
Senju Fire Protection Corp.

ヨーロッパ（ドイツ、チェコ）

Senju Metal Europe GmbH
Senju Manufacturing Europe s.r.o.

アジア

Senju (Malaysia) Sdn. Bhd.
Senju Trading (M) Sdn. Bhd.
ST Automatic Machinery Sdn. Bhd.
Senju (Thailand) Co., Ltd.
Senju Solder (Phils.) Inc.
北京千住电子材料有限公司
北京千住消防器材有限公司
千住金属（天津）有限公司
上海千寿企業管理咨询有限公司
千住金属（上海）有限公司
千住金属（惠州）有限公司
千住金属（香港）有限公司
千住電子材料（香港）有限公司
台灣千住電子股份有限公司
日商千住金属工業股份有限公司 高雄分公司
韓國千住金属株式會社
千住金属工業株式会社 韓國支店